

環境問題:新しい時代に若者の生き方を考える

～ 人口のドーナツ化から都心回帰、そして限界集落の再興へ ～

三重県立津商業高等学校
小野広陽・長田尚也・松田陸利

人々の生活はそのものが文化であり、環境問題と密接な関係がある。近年の人々の行動や生活の変容は、都市集中と地方の過疎化という深刻な問題をもたらしている。本報告では、昭和の時代の高度経済成長にともなう人口のドーナツ化から、平成の時代の都心回帰と人々の住行動がもたらした環境問題に対して警鐘をならすとともに、令和の時代には、限界集落と呼ばれる過疎地域の再興を目指すことによって、人々の生活文化と関連付けて環境問題を考察しようとするものである。

1. 新しい時代が始まる

令和になって半年ほどが過ぎようとしている。新たな時代といっても、私には、何かが変わったという実感は、まだない。渋谷や道頓堀など、町中で騒いでいた若者たちは、いったい、何を考えていたのだろうか。私は平成15年生まれで、平成のちょうど半分を生きてきた。これからの新しい時代を私たち若者はどう生きていけば良いのか、時代をふりかえって考えてみたいと思う。

2. 人口のドーナツ化と都心回帰

昭和の時代に、日本は大きく発展した。戦後の焼け野原から、復興を成し遂げた高度経済成長があった。日本で初めての東京オリンピックが開催され、高速道路ができ、新幹線も開通した。社会インフラの整備が急速に進み、大阪では日本初の万国博覧会が開かれ、こうして日本は復興を成し遂げたのだ。昔からの小さな店はショッピングセンターに変わり、人々の生活は、豊かさを実感した時代だった。それと共に、郊外の山を切り拓き、新しい住宅団地に人口が集中するという「ドーナツ化現象」も起きた。

平成になって、日本では30年にわたって戦争がなかったことが特徴といえる。インターネットの整備が進み、24時間営業のコンビニができ、大変便利になった。しかし、大きな災害や事件、事故が多発した時代でもあった。阪神淡路大震災や東日本大震災などの自然災害が多発し、また、地下鉄サリン事件など恐ろしい事件もあった。マネーゲームや、バブル景気の崩壊による経済の混乱、人件費の安い非正規労働者の増加と、一方で労働力不足が問題になるなど、人間らしさを見失いがちな時代でもあった。郊外の住宅から、交通に便利な駅近くの高層住宅へ人々が戻ってくるという「都心回帰」が起きた。

3. 都市化と過疎化

全国各地で小さな町や村が合併した「平成の大合併」では、大きな市になることによって都心部が発展した一方、しかし、周辺部の過疎化が進み、限界集落という言葉が生まれた。限界集落では、65歳以上の高齢者ばかりになり、集落そのものの維持が困難になりつつある(図1)。私は夏休みに祖父母が住む、田舎の集落を訪ねた。都心回帰しないでひっそりと暮らしている。そこは田畑が広がり、新鮮な野菜がとれ、空気もおいしく自然が残る、私たちの原風景があった。しかし、道路の幅は昔ながらの狭いまま(図2)で、コンクリートが荒れたままになっていた。しかも、病院が近くに無く、救急車の到着にも時間がかかるという、まさに「限界集落」だった。限界集落では、道路の修理がされないだけでなく、路線バス(図3)が廃止になるなど、さらに不便になり、

若者は都会に出て行って高齢者だけが残し、さらには、空き家が増えるという、悪循環が繰り返されている。私はこの事実をどうにかしたいと思う。



図1 過疎地の集落



図2 道幅が狭小



図3 路線バスのバス停

4. 新しい時代を考える

さて、新しい令和の時代は何が起こるのだろうか。かつては夢物語といわれた宇宙旅行や人工知能、ロボットも実現が見えている。遺伝子組み換えやクローン人間を作るといった科学技術の進化は、人類の滅亡に結びつく恐ろしい事態もあり得る。もっと身近なところに目を向ければ、コンビニの24時間営業を巡って、社会問題が噴き出してきた。高齢者の自動車の運転ミスによる、痛ましい交通事故は、毎日のように起きている。

コンビニも、自動車も、昭和や平成から引き継いだ、とても便利な存在で、今や欠かせないものである一方、問題点も一緒に引き継いでしまったのだ。これらの問題解決が、新しい時代の、私たち若者の役目でもある。よく考えれば、コンビニの問題も、高齢者による自動車事故の問題も、都市に集中していることに気づく。令和の時代は、都市の問題がもっと多く噴き出してくるのかもしれない。

5. 限界集落の再興

では、私たち若者はどうすればよいのだろうか。私たちは考えた。活力のある若者が限界集落を盛り立てていくことである。昭和の時代に人々が郊外に移り住んだように、今度は私たち活力ある若者が、都市から限界集落に移り住むのだ。しかし、そこに工場などの職場や、遊園地などのレジャー施設は作るべきではない。静かな環境、綺麗な空気や、星の見える夜空はどれも開発によって失われてしまうからだ。限界集落には、豊かな農地が残っているので、私たち若者が農業を引き継ぐことも考えられる。自然環境を生かして自分で食べ物を作ればよい。また、インターネットや情報技術を活用すれば、都市から離れて在宅勤務ができる。そうすれば、性別や年齢にかかわらず、もしも、病気や障害などがあっても誰でも働くことができる。自分に適した働き方を見つけ出すことによって、人間らしさを取り戻すことができ、さらに、労働力不足も解消される。多くの若者が移り住むことによって、道路整備が進み、バス路線も復活する。こうして、好循環を生み出すことによって、限界集落は、限界集落ではなくなるのだ。

6. 私たち若者の生き方

今、私たち若者がしっかりと前を見て、何が正しいのか、どうすれば人々が幸せになるのかを考え直すときだ。それは、オリンピックや博覧会を開催することでもなく、マネーゲームに走ることもなく、私たちの原風景を大切に生きていくことだ、と断言し結論とする。

引用文献:長田尚也「全国高等学校総合文化祭弁論部門」「みえ高校文化祭」での弁論発表、2019